# 読響 Yomiuri Nippon Symphony Orchestra

アンデルセンの童話を基に作曲された大管弦楽曲。

# 人魚姫

甘美な旋律にあふれる
輝かしい響きが、
熱いドラマを生む！

人間になりたい！

愛する人へ、伝えられない想い。
締めつけられる胸を、優しく包むのは誰？
甘く儚い想いは、大洋を彷徨う泡となる…

R. シュトラウス：交響詩「ドン・ファン」作品20
R. Strauss: Don Juan, op. 20

リスト：ピアノ協奏曲 第2番 イ長調
Liszt: Piano Concerto No. 2 in A major

ツェムリンスキー：交響詩「人魚姫」
Zemlinsky: Die Seejungfrau

ベルリン・フィルやウィーン響などと共演し、
精巧な音楽づくりで絶賛されるドイツの名匠
指揮＝ミヒャエル・ボーダー
Conductor: Michael Boder

©Alexander Vasiljev

読売日本交響楽団 第554回 定期演奏会
The 554th Subscription Concert

2016年1月14日（木）19時開演
サントリーホール
Thursday, 14th January 2016 19:00 / Suntory Hall

S¥7,200　A¥6,100　B¥5,100　C¥3,600

©Marco Borggreve

ブレンデルの薫陶を受け、数多のコンクールで入賞！
類稀なる表現力を持ち、欧州で注目を浴びる俊英
ピアノ＝フランチェスコ・ピエモンテージ
Piano: Francesco Piemontesi

コンサートマスター＝長原 幸太
Concertmaster: Kota Nagahara

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
助成：文化庁文化芸術振興費補助金（トップレベルの舞台芸術創造事業）
協力：アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）

お申し込み・お問い合わせ
読響チケットセンター：0570-00-4390［10時～18時 年中無休/年末年始を除く］
プレイガイド：チケットぴあ、サントリーホールチケットセンター
http://yomikyo.or.jp/

# 名匠ボーダーが待望の初登場！
# 抒情あふれる「人魚姫」に期待

岩下眞好（音楽評論家）

©Alexander Vasiljev

ミヒャエル・ボーダーを初めて聴いたのは、もう25年ほど前、ベルリン・ドイツ・オペラでのアリベルト・ライマンのオペラ「城」の世界初演のときだった。ボーダーは当時まだ30歳代。世界で初めて音になる全9景からなる大作を明快かつ緻密に振りきった指揮ぶりが強く印象に残った。このあとにもウィーン、ベルリン、ミュンヘンの国立歌劇場で、ボーダーの周到な指揮による現代オペラの初演を体験している。

ボーダーの指揮者としての実力と経験は破格である。独墺（どくおう）の一流オペラ・ハウスが主要な現代作曲家の作品の歴史的世界初演を度々ボーダーの手に委ねているのは、その証左のひとつにほかならない。

もちろん、ボーダーの目覚ましい活躍は現代音楽の分野だけではない。ボーダーの師ギーレンをはじめ、ラトル、サロネン、そして誰よりもまずカンブルランを思い起こせばわかるように、現代作品に強い関心をもち、その演奏を得意としている指揮者は、古典から近代の作品を振っても必ず新鮮な名演を聴かせる。ボーダーも例外ではない。頼もしい安定した音楽づくりのなか、作品の魅力や聴きどころを鮮やかに際立たせてくれる。

ボーダーは今回が読響への初登場だ。現代音楽の演奏にも使命感をもつドイツの名指揮者というと、かつての読響常任指揮者の故ゲルト・アルブレヒトがそうだった。ボーダーの指揮者としての仕事と実績は、まさにアルブレヒトの系譜に連なる。この意味でも、読響の定期演奏会の指揮台に立つべくして立つ人なのだ。

リヒャルト・シュトラウス、リスト、ツェムリンスキーという因習的ではない個性的なプログラムが組まれている。19世紀末から20世紀初頭の世紀転換期に書かれた二つの交響詩、シュトラウスの「ドン・ファン」とツェムリンスキーの「人魚姫」を一夜のうちに取り上げる試みは、じつに興味深い。シュトラウスとツェムリンスキーの個性の違いと同時代性について、きっと様々な発見があることだろう。

ツェムリンスキーの「人魚姫」は、交響詩とはいえ全3楽章からなる大作。初演のあと長いこと楽譜が行方不明で、ようやく1980年代になって“再発見”された話題の作品だ。有名なアンデルセンの物語を素材に、巧みなオーケストレーションによって情景や出来事が絵物語のように語られてゆく。ロマン性に富んだ雰囲気豊かな作品である。いわば管弦楽による抒情オペラ。ボーダーこそ、この曲に最適任の指揮者であると思う。

リストの協奏曲ではピアノ界の新世代のホープ、ピエモンテージが聴けるのも楽しみだ。

## Conductor: Michael Boder
## 指揮＝ミヒャエル・ボーダー

確かな演奏解釈と熱いタクトで絶賛されるドイツの名匠。特にワーグナーやR.シュトラウス、近現代作品で定評があり、世界的名声を確立している。巨匠ギーレンのアシスタント指揮者としてフランクフルト歌劇場で研鑽を積み、バーゼル歌劇場の音楽総監督、リセウ大歌劇場の音楽監督を歴任した。現在はデンマーク王立歌劇場の首席指揮者及びアーティスティック・アドバイザーの地位にある。ウィーン国立歌劇場、バイエルン国立歌劇場、ドレスデン国立歌劇場、英国ロイヤル・オペラなど世界の一流歌劇場で活躍。また、ベルリン・フィル、ウィーン響などと定期的に共演しており、オペラとコンサートの双方において充実した活動を展開している。読響とは今回が初共演となる。

## Piano: Francesco Piemontesi
## ピアノ＝フランチェスコ・ピエモンテージ

類稀なる表現力とテクニックで聴衆を魅了する俊英。プレンデルの薫陶を受け、エリザベート王妃国際音楽コンクールなど数々の国際コンクールで入賞。モーツァルトから20世紀作品まで、幅広いレパートリーを誇る。これまでメータ、アシュケナージ、ヤノフスキ、ノリントン、デュトワらの指揮で、バイエルン放送響、ベルリン放送響、ロンドン・フィル、クリーヴランド管などと共演。ウィーン・ムジークフェライン、ウィグモア・ホールなど著名なホールでリサイタルを開催している。BBCプロムス、ルツェルン、ラインガウなどの音楽祭に招かれており、CDも数多くリリース。読響とは今回が初共演となる。

©Julien Mignot

読売日本交響楽団 第554回 定期演奏会

2016年1月14日（木）19時開演

**サントリーホール**

S ¥7,200／A ¥6,100／B ¥5,100／C ¥3,600

東京都港区赤坂1-13-1　Tel. 03-3505-1001

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅（3番出口）より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅（13番出口）より徒歩約7分

学生券：学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます（要学生証）。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■都合により曲目、出演者等が一部変更になる場合もございます。あらかじめご了承ください。 ■未就学児童のご入場は、固くお断りいたします。

**読響チケットセンター　0570-00-4390**

＊10時－18時・年中無休／年末年始を除く

**読響チケットWEB　http://yomikyo.pia.jp/**

＊座席選択してチケットをご購入いただけます（一部、携帯電話、スマートフォンなどを除く）。

＊郵送でチケットを受け取る場合、送料は無料です。

プレイガイド：チケットぴあ 0570-02-9999、サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017